

夢窓幼稚園通信第80号

2017年2月28日

おひさまはいいなあ。

もちろん雨も風も……大切ですが、朝窓から光が射し込んで世界が明るく照らし出されると、「また新しい日がやってきた!」とうれしくなります。まだ寒い日もありますが、おひさまの光はもう確かに春を運んできてくれています。

『ふゆめがしょうだん』のことを思い出して、早速庭に出てみました。街を歩くときにも時々立ち止まり、老眼鏡をかけて「ちょっと失礼」と杖をひっぱらて眺めさせてもらいました。

ありました、ありました。

芽の下に小さなちいさな顔があります。どれも目や口、ときには耳のようなものがついていて顔に見えるのです。ほんとうはそこに葉っぱがついていたその跡らしいのですが、新しい春を前にふくらんできた芽の下にあって、ちょうどその芽を守るようにいる守護神みたいに見えるのです。

もしかしたら、一人ひとりの人間にも目に見えない、そんなしっかり見守ってくれている寄り添いの守護神がいるのかもしれないなど、思いました。

人と人が共にあって社会や世界を作っていますが、たとえ小さなものであっても、一人の「私」が心を動かして一歩進むときに、世界は変化するのだと思います。別の言い方をすると、一人ひとりの「私」が私として思いを持ち、願いに従って動かなくては、世界は、社会は変化していかないでしょう。

青バッチさんは卒園に向かって、「新しいいちわんせい」として様々な準備をし、体験を重ねています。

そして黄色バッチさんは「新しい青バッチ」として、赤バッチさんは「新しい黄色バッチ」として心を動かして前に向かっていくのに違いありません。

青バッチさんは山盛りの作業の中で、大切にしていることが2つあります。

ひとつは「ひとりずつの私が私としてしっかり立つ」ということ。もうひとつは「仲間である」ということを大切にすることです。

「人の話を聞きましょう」ではなく、仲間の話しているときに、それを自分の大切なことと思って聞きたくなるかどうかということなのです。

「頑張っている人を応援しましょう」ではなく、力いっぱい仲間を自分のこととして応援したくなるかどうかなのです。

ほんとうの春がやってきます。一人ひとりが「自分と共にある仲間」の存在を大切にしながら前に向かって進んでいけますように!

小さな「私」の守護神は、時代霊ミカエルのように、私が順調であるときは笑顔で応援してくれ、つまずいたり調子がよくないときには切なそうな表情で見守り、同じ思いに立って励ましてくれていることでしょう。

よろこびの3月を、私たち自身でつむいでいきたいと思ひます。

園長 升光 泰雄

